

# 不動産で暗号資産の創造！

新生研（新宿生活研究所） 浦上 登

結論・不動産で「ネット地上権」を開発し暗号資産が「社会的共有資産」で特区を創造する。

視点・グローバル経済での我が国は、無資源で人口多い島国、先進国に属し外交は日米安保を基軸に安定している様に見えるが、根なき花で不安定性・不確実性が多い、2025年には超高齢社会へ入る、不安視される社会保障に高齢者を活かして外国に左右されず国内で安定した自立を支援することで格差を無くし民力向上になる。

具体的には次の3点で、自分の為に働いている事が同時に国家社会にも貢献しています。

- 1 ネット配達・・・即「ネット地上権」で暗号資産が「社会的共有資産」を創出する（資料で説明）。  
6年10ヵ月の配布経験と30余年前から毎朝新聞折込みチラシのデータから具体化する。
- 2 人的資源・・・増え続ける働く意欲の高齢者を体力に応じた生涯現役の働き方を開発する。  
「人生100年時代」社会保障の不安をネットワークの地上権で暗号資産にすれば安心できる。
- 3 印刷ロス・・・データに基づいたマーケティング配布の仕組みが紙の省資源になる。  
住民と広報は知る権利と知らせる責務の関係、宅配ネットはムダ無く多様なサービスも可能です。

◆ 起業では今日的課題（1、2、3）を、行動規範N~P（10項目）ではCSRを果たしています。

N ネット配達・・・広報の宅配が理念、経営資源は「人・網・金」の似て非なる特区でオンリーワン。

E 環境保全・・・パリ協定や国連主導のSDGs（17の課題）、省エネ、地球温暖化対策を順守。

D 持続可能・・・「資源加工」から「情報加工」への切り替えで多様な宅配サービス活動は無量大。

F 資金調達・・・クラウドファンディングで共感と暗号資産づくりは購入型のESG投資を提案。

W 労働改革・・・自宅で自立と自由の両立可能な働き方、仕事は午前中で終了し午後からの半日は自由です（通勤者の朝夕往復2時間半+残業30分=3時間が午前中の実質労働になり通勤費もなし）マイペースで同一労働・同一賃金、雇用ではなく自立支援策。

T 労働技術・・・ネットワーク、フレックスタイム、ワークシェアリングの特徴を活かした働き方。

A I T技術・・・当所の情報通信技術の活用や労働生産性、TV会議、SNSの活用等は今後の課題。

U 全国共通・・・「1基礎的自治体のモデル」づくりをしてユニバーサルに自治体単位で全国統一。

I 保険加入・・・各自は毎月2千円の傷害保険に加入、若い会員は別途にNISA、iDeCoを推奨。

P 特許開発・・・N~Pを1つに集約「ビジネスモデル特許」（現在は商標権申請中）取得を目指す。

◆ 早期実現・・・モデルづくりには幾つかの区が条件に合い、切り替える事で時間と費用が削減する。

・ 欠点有り・・・スタート初期は仕事がなく大丈夫か？の不安がある（インターネットやスマートフォンの普及はチラシの減少になっているがデータでは広報は読まれていない）。

・ 労働技術・・・現在は不可視の可視化も技術と呼んでいる、例IT-情報技術、FT-金融技術など。

・ 配布軒数、丁合時間、配布時間、合計時間（1人の平均労働時間）（図1）

| 配布（軒数） | 丁合（時間：分） | 配布（時間：分） | 合計（時間：分） |
|--------|----------|----------|----------|
| 300    | 5枚位 30   | 約 1：00   | 1：30     |
| 400    | 40       | 1：20     | 2：00     |
| 500    | 50       | 1：40     | 2：30     |
| 600    | 1：00     | 2：00     | 3：00     |
| 700    | 1：10     | 2：20     | 3：30     |
| 800    | 1：20     | 2：40     | 4：00     |

・ 表は 配布者全員の1人当たりの平均値でマンションや企業も含まれる、新宿区牛込地域で47人、主に幼稚園児の主婦らで6年10ヵ月のデータから。

- ・ 自立支援の人数は下表のようになります（医療、介護、育児等は別）。
- ・ 人口・世帯数は平成 27 年 10 月 1 日現在の国勢調査人口を基準。 例 1 自治体のモデル
- ・ 世帯数、215,899 戸、東京都 発行「2019、暮らしと統計」から、例 チラシの配布（図 2）

| 月      | 宅配軒数・毎日町内 | 配達時間（1 人） | 市・区の自立支援者数 |
|--------|-----------|-----------|------------|
| 3 万円前後 | 約 250～300 | 午前中の 1：30 | 約 700～850  |
| 5 万円前後 | 約 350～450 | 午前中の 2：30 | 約 480～600  |

- ・ 東京都下 総世帯数、7,007,030 戸、当面 島部（13,156）除く、例 チラシの配布（図 3）

| 月      | 宅配軒数・毎日町内 | 配達時間（1 人） | 都内の全自立支援者数      |
|--------|-----------|-----------|-----------------|
| 3 万円前後 | 約 250～300 | 午前中の 1：30 | 約 23,300～28,000 |
| 5 万円前後 | 約 350～450 | 午前中の 2：30 | 約 15,500～20,000 |

- ・ 宅配時間は遅い人が対象になっている、地域によって差があります。
- ・ 首都圏は密集しており又 早朝は自動車が少なく 慣れると能率が非常に上がり 9 時前に宅配が終わると 1 日が自由時間になる（大変なのは年間で雨や雪の日が 20 日程ある）。
- ・ 宅配中の挨拶が重要です、1 人住まいが多くなり掛け声がコミュニケーションになり、行政にとっても地域密着型の仕事は付加価値・潜在性（例 安否確認）になる。

◆ 情報通信技術の進化で世界の出来事は瞬時に知る事ができる様になったが物流や宅配は人の手を要する、ロボットやドローンのように、今後もハード・ソフト両面でもっと優れた運搬手段が出現するでしょう、オイルショック（1972）を機に配達問題に取り組んできたのは人の手を要する持続力（仕事が無くならない）、自然との共生、ネット社会での社会貢献の有り方です。

- ・ 大抵の仕事と関連があります参加者歓迎・・・新生研 ☎ 03-3950-5638。